

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
2 【かかわる】	⑪【ボランティア】他の人や地域社会に役立つことを自分から進んで実践し、他人の喜びを自分の喜びとして共感する。	総合的な学習の時間 特別活動

【題材】

- ・復興教育の取り組みの中心として地域の復興に向けて、全校でボランティア活動を実施する。

【対象】

- ・全校生徒(169名)が地区ごとにわかれて、学区内にある仮設住宅等を訪問して実施する。

【復興教育の視点】

- ・「かかわる」地域の人々と、そして地域の復興に中学生として主体的に関わる態度を育む。

【実践の概要・詳細】

- ・「復興、支え合い・助け合い・感謝の気持ち」をテーマとして、東日本大震災・津波の起きた平成23年度から仮設住宅等での全校ボランティア活動を継続して実施してきている。初年度は4回、24・25年度は各3回実施してきた。初年度は、物資の仕分けや配布、仮設住宅での御用聞きと清掃などが中心であったが、現在は、住宅周辺の草取り、草刈り、ガラス拭きやお年寄りとのレク活動、肩もみなど、地区の要望に応じて内容も変化してきている。活動の終わりには合唱と本校伝統のソーランを披露し、地域の方々に喜んでいただいている。
- ・23年5月に3年生の生徒の有志を募り「ソーラン実行委員会」を結成し(15名)、地域の要請に応じて復興イベントなどに出演してソーランを披露してきた。現在の3年生が3代目、今4代目に引き継がれようとしている。

【実践の詳細1】

◆ 全校ボランティア活動を年間3回実施

- 1) 第1回 5月30日(火)
- 2) 第2回 7月11日(木)
- 3) 第3回 9月3日(火)

※5地区の訪問先

- ・旧尾崎小学校体育館
- ・多目的グラウンドの仮設住宅
- ・旧釜石商業高校跡地仮設住宅
- ・大平地区仮設住宅
- ・あいぜんの里(老人福祉施設)

【生徒の感想】

- ・今日は、仮設に行ってみみんなで草刈りや草取りをしました。住んでいるおばあさんやおじいさんたちから何度も「ごろうさん」「ありがとう」と言ってもらいました。最初はめんどくさいと思っていたりしたけど、行ってよかったなと思います。次はもっとがんばりたいです。
- ・合唱の時は、見に来てくれた人達と一緒に歌ってくれてうれしかったです。ソーランを踊った時は本当に喜んでくれて、アンコールの声があり、疲れましたが最後まで頑張りました。



【実践の詳細 2】

◆ 震災後に有志によるソーラン実行委員会を立ち上げ、地域の復興イベントなどに出演し、元気と感謝を届ける活動を実施。

- ・ 5月 18日 平田地区の復興祭
- ・ 8月 3日 ボランティア祭り
- ・ 8月 16日 平田ニュータウン盆踊り
- ・ 10月 5日 釜石生協祭り

※ソーラン実行委員会は、11月に世代交代する。その際、2年生の立候補者の踊りや普段の生活などを見て3年生の実行委員が審査し、合格者が次の世代の実行委員となる。

【生徒の感想】

・震災直後から先輩達が始めた活動で、僕たちもそれを引き継いでやってきました。被災した地域の人たちに笑顔、元気、そして感謝の気持ちを届けようとやっていますが、逆に自分達が励まされ、活動を続ける力をもらったと思います。先輩達の活動があったから今があると思うので、後輩たちにも伝統として引き継ぎ、もっと広げて行って欲しい。



平田復興祭



釜石生協祭り

【実践の詳細 3】

◆ 活動発表

- ・ 10月 27日 文化祭で3年生が地域の方々へボランティア活動について発表

【実践の詳細 4】

◆ 地域へ復興に向けてのスローガンを描いた垂れ幕を作成して校舎に掲示

- ・ 5月：「輝き～みんなの力で地域に復興の光を」「完全燃焼～熱き魂を燃やせ～」
- ・ 10月：「復興、支え合い・助け合い・感謝の気持ち」「進 Grow up」

【まとめ】

震災後、約 3 分の 1 の生徒が避難所などでの生活を体験した。そこで、自発的に清掃や物資の分配などの活動をしていた。学校全体としても、中学生として「復興のために今できることは何か」と考え、全校でのボランティア活動を開始した。23年度は4回、24・25年度は各3回実施し計10回となった。仮設住宅に住む人たち、特にお年寄りの方々には毎回大歓迎していただき、そこでかけていただいた感謝の言葉は、生徒たちの自己有用感を育み、次回への意欲の向上にもつながっている。

仮設住宅に住む人たちにとっては、忘れ去られることが一番恐れていることと感じます。生徒達も職員も「もう来なくていいよ」と言われるまで続けることを確認しています。

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
2 【かかわる】	⑩【県内外や海外の人々とのつながり】 苦しみや悲しみに包まれている人々を支援している人に感謝し、共に協力することの大切さを実感する。	総合的な学習の時間
<p>【 題 材 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 札幌市立栄中学校との交流を通して「震災・復興学習」への理解を深める。 <p>【 対 象 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 3 学年生徒(66 名)と他地区（札幌市立栄中学校）との交流 <p>【復興教育の視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「かかわる」他地区の生徒との交流を通して、他の取り組みから学ぶと共に、これまでの自分たちの活動を見直し、理解を深め、取り組みの意欲向上につなげる。 <p>【実践の詳細】</p> <p>◆ 6 月 7 日(金) 3～4 校時</p> <p>午前 10 時 札幌市立栄中学校修学旅行隊 170 名がバス 4 台で来校。</p> <ul style="list-style-type: none"> 体育館で合唱で歓迎し入場 両校の代表挨拶 栄中学校の学校紹介、部活動、震災学習などについて 大平中学校の震災以後のボランティア活動の紹介 大平中、栄中の順でソーラン(栄中は「よさこい」と呼ぶ)を披露 栄中から千羽鶴、大平中からは舳結びの色紙を贈呈・交換 両校一緒に「ふるさと」を合唱 <p>【生徒の感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> 遠くの人でも被災地のことを考えてくれていることに感動しました。また、自分達がやってきた活動を「同じ中学生としてすごいと思った。」とか褒めてもらってなんかうれしかった。これからもボランティア活動をこれまで以上にがんばっていこうと思った。 大平中のよさこいは、動きがそろって気合いが入っていてすごいと思った。被災地の仲間を励まそうとやってきたのだが、逆に元気と勇気をもらったような気がしました。(栄中生徒) <p>【まとめ】</p> <p>他校の取り組みに直接触れることによって、お互いに学ぶ点があり、今後の取り組みの改善や意欲向上につながった。特に同じ中学三年生から、当日の挨拶や反応そして後日送られてきた手紙等を通じて本校のボランティア活動やソーランの踊りに関して高く評価してもらったことは、自分たちの活動の価値・意義を改めて自覚し、自信と誇りをいただくことができた。</p>		



栄中から千羽鶴をいただきました



短い時間でしたが1時間後には肩組んで、、、

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
1 【いきる】	④ 【夢や希望の大切さ】 夢や希望を持つことは、生きる価値を見出すことであり、つらく厳しい状況を乗り越えられることにつながることを実感する。	総合的な学習の時間

【 題 材 】

- ・地域の方々による「職業講話」

【 対 象 】

- ・1学年生徒(54名)を対象として、地域で活躍する方々を招いて職業に関わる講話をいただく。

【復興教育の視点】

- ・「いきる」地域の方々から職業や生き方についての講話をいただき、自分の生き方を考える。

【実践の詳細】

- ◆ 7月3日(水) 5~6校時 1年生を対象

に「職業講話」を実施

- ・被災地の中で、復興に向けて日々力強く働いている地域の方々6人を講師として招いた。

(講師) ・三陸鉄道の運転士

- ・釜石警察署の警察官
- ・私立保育園の調理師
- ・県立釜石病院の看護師
- ・市内薬局店の薬剤師
- ・漁業士(生徒保護者)

- ・5・6校時、それぞれ2コースに分かれ、1講師30分ずつ講話をいただくこととし、生徒は自分の希望により3人のかたの講話を聴くことができた。



【生徒の感想】

- ・職業講話は、とてもためになった。特に薬剤師。ぼくの夢は薬剤師になることなので、すごくうれしかった。でも話を聞いて「もっと勉強しないと」と思った。
- ・職業講話でいろいろなことを知りました。やっぱり仕事はそんなに甘くないと思いました。
- ・看護師、調理師、警察官の人から話を聞きました。どれもやりがいのあるお仕事ばかりでした。自分も今日の話をもとに将来の夢を決めていきたいと思います。

【 ま と め 】

釜石市の学校教育の目標である「生き抜く力の育成を図る」をうけて、それに資するべく1年生を対象に「職業講話」を実施した。震災を言い訳にせず、夢や希望を持って生きていくための糧となるようにと考え、被災地の中で復興に向けて自分の仕事に誇りを持ち力強く日々働いている方々から講話をいただき、生徒たちは、自分自身の将来や生き方について前向きな気持ちを持って考えるととても良い機会となった。